









会派名 開政会

報告日

会派代表者 稗貫 秀次 様




令和3年12月10日

出張者	稗貫 秀次 	小森 唯永 	清水 隆吉 	
氏名				

下記のとおり出張しましたので報告します。

記

用務先	東京都		
期間	出張日数	令和3年12月2日 から 令和3年12月3日	まで 1泊2日
支払科目	用務詳細(内容、用務先名、説明等)		
①調査旅費	・ばんえい競馬における騎手、調教師の育成について		
備考			
資料等は別添のとおり			

会派代表	経理責任者	会員
		

研修報告書 帯広市議会 開政会

【 日時：研修項目 】

令和3年12月3日（木）

10:00～11:00

「ばんえい競馬における騎手、調教師の育成について」

【 参加議員 】

小森 唯永 議員、稗貫 秀次 議員、清水 隆吉 議員

※無所属：有城 正憲 議長、市政会：石井 宏治 議員、林 佳奈子 議員

【 講師 】

地方競馬全国協会

【 研修先 】

地方競馬全国協会 会議室

〒106-8639 東京都港区麻布台 2-2-1

電話 03-3583-6842

【 研修項目・概要 】

ばんえい競馬の2020年度の売り上げは、前年度比56%増の483億5278万円となり、過去最高額を記録した。インターネットでの馬券販売が前年度から7割近く増え、新型コロナウイルスの感染拡大による「巣ごもり需要」が売り上げを押し上げたとみられる。

生産界をはじめ、競馬産業全体にとっても、またファンの皆さんにとっても歓迎すべきことであるが、将来にわたる事業運営の安定化と経営基盤の強化のため、ばんえい競馬に関わる人材確保と育成についての現状について調査するもの。

【 質疑応答 】

質問 今年度の調教師試験結果について

答え 全国で5名が受験し、2名のみが合格。

質問 合格基準はどのようなものか？

答え 口頭による試験で6割以上の得点が必要である。

質問 試験対策はどのようにするのが良いのか？

答え 簡単に受かるものではない、しっかり受験勉強をしてほしい。また、那須のセンターにて3週間の受験対策も行っている。内申や受験態度などに関係するものではない。

質問 受験に関して教本はあるのか？

答え 教本はある、個人での購入も可能である。

質問 リモートによる試験対策を行ってもらえることはできるのか？

答え 現在は行っていないが、検討していかなくてはいけない。

質問 厩務員も全国で不足しているが対応は？

答え 厩務員講習を3泊4日で実施しているほか、HPで随時募集もしている。外国人雇用も増えている。

質問 全国で外国人雇用はどのくらいか？

答え 100名程度おり、約半分がインド人である。外国人雇用については教育上の問題が課題である。（不正などの事件があったため）

質問 厩務員、騎手、調教師など待遇で、社会保障、福利厚生もなく心配が耐えないが組合方式で対応している所はあるのか？

答え 南関東では組合で対応しており、充実している。それ以外は帯広と同じ状況である。

意見 ばんえいでは、馬の蹄鉄を冬用に打ちかえなければいけない。この蹄鉄は外国製であるため、海外依存しているが、現在、外国から入ってこない状況があり、不足している。帯広市内で蹄鉄を製作できる事業所もあるが、独占にならないかの懸念がある。

【 所見 】

ばんえい競馬は現在、公営競技としては日本で帯広市のみが主催する地方競馬である。かつての旭川市、北見市、岩見沢市を合わせた4市で開催していた頃における存廃危機を乗り越え単独開催となって十数年経過、近年は売上好調を維持している。コロナ禍における巣ごもり需要で、インターネット投票が好調な半面、実際に帯広競馬場における発売額は課題の一つとなっている。本市単独であるという強みがある半面、生産者、厩務員、騎手、調教師などのばんえい競馬に携わる関係者、用具などの制作や確保といった課題もある。この度は主に人材確保といった観点から概要の説明や質疑応答をさせていただいた。騎手や調教師には試験に合格しなければならず、調教師にいたっては現役時代の実績に応じて優遇される試験もあるということもうかがった。公営競技という観点から、成り手不足であるからといって誰でも合格させるわけにはもちろんいかず、まずしっかりと学んだうえで試験に臨んでいただきたいといったお話しがあった。売上高などが好調である現在だからこそ、ばんえい競馬に携わりたいという人材をどのように確保できるのか、どのような手法があるのか、今後も調査研究を続けてまいりたい。

以上



研修時の光景











外 観

会派名 開政会

報告日

会派代表者 稗貫 秀次 様

令和4年3月31日

出張者	清水 隆吉 			
氏名				

下記のとおり出張しましたので報告します。

記

用務先	京都府京都市		
期間	出張日数	令和4年3月27日	から 令和4年3月30日 まで 3泊4日
支払科目	用務詳細(内容、用務先名、説明等)		
②研修費	<ul style="list-style-type: none"> ・議員のための基礎講座～予算と決算～ ・地方議会と地方公会計(基礎編) ・地方議会と地方公会計(実践編)―公共施設マネジメントを踏まえて― 		
備考			
資料等は別添のとおり			

会派代表	経理責任者	会員
		

研修報告書 帯広市議会 開政会

【 日時：研修項目 】

令和4年3月28日（月）

10:00～13:00

議員のための基礎講座～予算と決算～

【 参加議員 】

清水 隆吉

【 講師 】

廣瀬 和彦 氏

(株)地方議会総合研究所 代表取締役

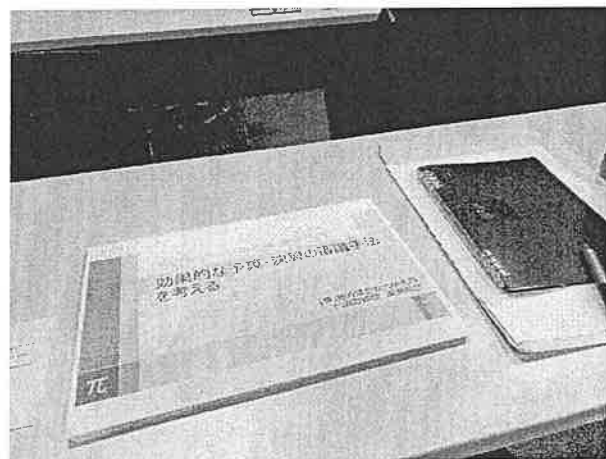
元全国市議会議長会法制参事

慶応義塾大学大学院法学研究科修士課程卒。明治大学政経学部講師・明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科講師等として活躍。著書は、「Q&A議会運営ハンドブック」「地方議員ハンドブック」「政務調査費ハンドブック」（すべてぎょうせい）など多数。

【 研修先 】

京都経済センター

京都市下京区四条通室町東入函谷鉾町78番地



【 質疑応答 】

Q：議員間討議、委員間討議と話しがあったが、する場合のテーマの出し方、結果を出す方法などどのような方法があるのか。

A：議員間討議のやり方は様々あるが、会津若松市のやり方は住民等との意見交換の中でテーマを決めている。意見要望を聞いた中で重要と思われるものをテーマとして設定し、議員間討議の手法をとっている。委員会で行ってもいいし、政策討論会として別途設けるなど様々な手法を用いている。テーマごとに行われていることは少なく、議案ごとに行われることが多い。議案に対してそれぞれの考えを伺い、考えに違いがあった場合、その点を抜き出してお互いの合意形成につなげられるかの話し合いをすることが議員間討議となっている。修正したもので提出することができれば修正動議、修正までいかなければ決議などまとめていくやり方である。そのため、修正や決議まで到達しないことはいくらでもある。

【 所見 】

予算及び決算が大事であることは言わずもがなである。講師は予算書のチェックポイントとして、「事業目的の緊要度の順位が間違っていないか」といった点を挙げられていた。本市においてもずっと行われている事業であるからといって見過ごされてはいないだろうか。長年やっているから正しいというわけではないという考えのもと予算については目を向けていきたいと考える。行政として次年度にどのような動きをしていくかが問われるという点で、予算に目が行きがちであるが必ずしもそうではない。どのように行われたか、果たして適切、適当であったのか、その成果から得られる効果や課題点をあぶりだし、より良くしていくための議論を今後も深めてまいりたい。

以上



研修報告書 帯広市議会 開政会

【 日時：研修項目 】

令和4年3月29日（火）

10:00～13:00

地方議会と地方公会計（基礎編）

14:00～17:00

地方議会と地方公会計（実践編）

—公共施設マネジメントを踏まえて—

【 参加議員 】

清水 隆吉

【 講師 】

横田 慎一 氏

一般社団法人行政経営支援機構 代表理事 理事長

横田真一公認会計士事務所・税理士事務所 所長

主な資格：公認会計士、税理士、英国勅許公共財務会計士（CIPFA）、

地方監査会計技術者（CIPFA Japan）、認定ファシリティマネジャー（CFMJ）

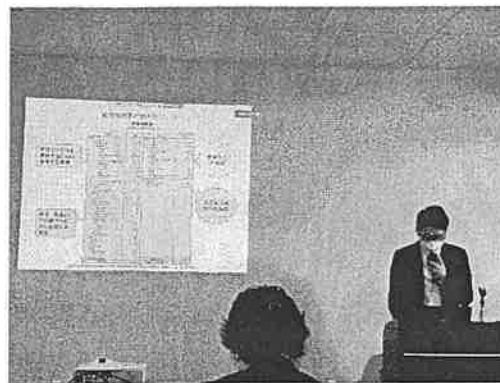
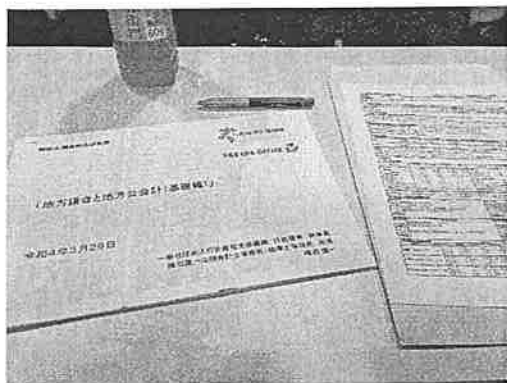
著書には「公会計と公共マネジメント」（共著 中央経済社、2021年）、「入門公会計のしくみ」（第11章執筆担当。中央経済社、2016年）、「公共経営における財務指標活用の可能性：吹田市のケースからみた公会計情報の有用性検証」（2020年）など研究論文・発表多数

【 研修先 】

京都経済センター

京都市下京区四条通室町東入函谷鉾町78番地





【 研修項目・概要 】

(午前)

1. 行政経営における議会の重要性
2. 地方議会における地方公会計の役立ちの実例
 - ①地方公会計の制度動向
 - ②町田市における取組み
3. 地方公会計における財務書類等の読み方
 - ①財務書類の読み方
 - ②財務分析指標

(午後)

1. 地方公会計における固定資産台帳
2. 地方公会計と公共施設マネジメント
3. 地方公会計の活用を踏まえたワークショップ

【 所見 】

講師は公会計のイメージとしてはとっつきにくい、よくわからない、数値が苦手と言われるが、財務書類のポイントが理解でき、公会計に基づく財務指標から財政状況を理解できることが重要だと話す。地方公会計の課題としては既存の官庁会計に上乘せして運用されている制度であり、事務負担が大きいことも挙げられる。午前は地方公会計の基礎や実際に行われている実例等から学び、午後からは実践編として基礎データをもとに財務分析のワークショップを行った。なかでも、「 $\text{経常収益} \div \text{経常費用} (\%)$ 」で求められる「受益者負担比率」を事業別・施設別に示すことにより使用料の適正化につながる点や、「 $\text{純行政コスト} \div \text{住民基本台帳人口}$ 」で求められる「市民1人当たり純行政コスト」は住民1人当たりの行政コストを算出することで、行政サービスの効率性を他団体との比較も容易に把握できる点は、表に出てこない数字の大切さを改めて知ることとなる学びの機会となった。本市においても将来の行政運営を鑑みた時に、受益者負担をどの程度求めなければいけないのか、社会保障費の増大や、公共施設・インフラの劣化などどのように対応していかなければならないのか、今後とも調査研究を進めたい。

以上